

様々なことを吸収して、 ユニフォームの奥深さを追求していきたい。

野崎 茜

企画部 / パターン作成



服を縫うことが好きだったことから服飾の専門学校に進学した野崎さん。学生時代に衣装を作成していた時に「脇のつまみ具合ひとつでずいぶん印象が変わる!」ということに奥の深さを感じたことがきっかけで、パターンに興味をもったといいます。そして、パターンについてもっと学びたいと現在のパタンナーの仕事を選んだそうです。

現在の担当は、パターンの作成、縫製仕様書、裁断業務など。「ユニフォームのパターンは、各業種の仕事の動きに合わせたゆとりを考慮し作成しなければいけません。大きすぎても動きの邪魔になります。ちょうど良い具合に入れることが大切なんです。そのために、今までの蓄積されたデータを参考にしながら決めていきます。入社当時、別寸(大きいサイズ)を担当していた時のことになりましたが、お客様から着心地がとても良かったというお声を頂き、とても嬉しかったことを今でも覚えています。」

また、「見た目だけでなく、着用する人の目線に立った機能面にもこだわった仕様にするところは、一般衣料にはない奥深さを感じますね。」とユニフォームの魅力を話す野崎さん。今後は、「担当しているパタンナーとしての業務だけでなく、縫製の知識も深め、色々な側面からものづくりに関与していきたいです。」全ては着用する人に最適なユニフォームを届けるため。野崎さんのパタンナーとしての探求は続きます。



もっと生の声

Q & A

- やりがいを感じるの、どんな時ですか?
パターンや仕様書作成、裁断などの製品作りの全体の流れを把握しながら、自分の担当の仕事をきちんと行い、納期に間に合うようにスムーズに各工程が進んでいる時です。
- 思い出に残っているエピソードはありますか?
入社したばかりの頃に縫製場で勉強として製品を縫っていたのですが、その時の経験があったおかげで、現在のパターンや仕様書作成の際に、平面ではわかりにくい細かい部分をしっかりと落とし込むことができるようになりました。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
私自身、学生の時を振り返ると、もっと多くの事にチャレンジしておけばよかったと、少し後悔しています。皆さんにはジャンルを問わず自分が好きな事とことん追求・経験し、さらには他の様々な事にも努力を惜しまず挑戦して行って欲しいです。その経験は、将来きっと、奥深く素敵なものづくりの糧になります。一緒に頑張っていきましょう!

